

第48回 高橋記念賞

高橋記念賞は、故 高橋愛次氏の功労を記念し、扶桑軽合金株式会社（現 株式会社アーレスティ）より寄贈された基金により、軽金属鋳物、ダイカスト、展伸材、二次合金および再生地金等の溶解・鋳造に関連する工業技術の進歩発展に功労のあった技能者に贈る。



菊永 尚文君は、1994年株式会社神戸製鋼所長府製造所に入社以来32年間、一貫してアルミニウム合金の溶解・鋳造作業に従事し、常に安全・品質・生産の向上に尽力してきた。特に、当時画期的な溶解炉の燃料転換（重油・灯油からLNGへの切替）やリジェネバーナーの導入では、工事計画から立上げまで携わり、省エネルギーと環境改善の両面で顕著な成果を挙げた。また、一般的な縦型DC鋳造だけではなく小径横型連続鋳造の生産技術にも積極的に取り組み、成果を挙げている。2013年度の小径横型連続鋳造ラインの海外事業プロジェクトでは、設備立上げメンバーとして参加し、国内で培った溶解鋳造技術、操業技術、品質管理を現地にも広め、国際的な事業展開に大きく貢献した。近年では、CO₂削減やリサイクル推進の観点から、溶解時に発生するドロスからアルミメタル分を効率的に回収しメタルロス低減に寄与する活動においても成果を挙げている。

現在は職長として、安全・品質・生産はもちろん設備の維持管理に至るまで幅広い分野で力を発揮し、部下からの信頼も厚く、これまでの豊富な経験と知識を活かした今後益々の活躍が期待される。

菊永 尚文 君
(株式会社神戸製鋼所)



成瀬 隆君は1989年にスカイアルミニウム株式会社（現 株式会社UACJ）に入社以来、36年間一貫してアルミニウム鋳造工程に従事した。入社後はスラブ鋳造オペレーターとして、溶解から鋳造まで幅広い技能を習得し、2007年からは作業主任として現場を牽引した。2003年に古河スカイ株式会社、2013年に株式会社UACJ設立といった大規模な事業再編においては、従来にない合金やサイズの鋳造に挑戦し、技術確立の中心的役割を果たした。特に現場・現物・現実の製造側目線と、原理・原則の技術部門目線とを結びつけ、標準化と技術伝承の仕組みづくりに大きく貢献した。2017年には統括主任に就任し、安全・生産の管理や人材育成にも尽力した。現在は鋳造計画の主担当として、下工程との連携強化と鋳造計画を自動化するDX推進に取り組んでいる。長年培った知識と経験を次世代へ継承できる体制づくりに寄与し、今後も活躍が期待される。

成瀬 隆 君
(株式会社UACJ)